



錦城高校新聞 題字 井口 文章 再刊 第383号 印刷・発行 錦城高等学校新聞委員会 編集室 2022

みんなでつくる 錦城高校新聞

一面：1年生が入学して初めての学年行事となる運動会を実施しました！ 二面：今年度から錦城に赴任した新任の先生を大特集第一弾！

生60回 絆を深めた

昨年引き続き代替行事 1学年運動会開催

4月18日(月)、グラウンドにて昨年と同様に宿泊研修の代替行事として1学年運動会が開催された。3種目を通して各クラスが絆を深めることができた。今号ではその様子をお届けする。(編集部共同取材)

白熱した台風の日 最初の競技は、台風の日。4月18日(月)の足元と頭上を通過させ、次の競技は、台風の日。4月18日(月)の足元と頭上を通過させ、次の競技は、台風の日。



大縄跳びの様子 クラスで団結し、跳び続ける

大縄跳びの様子

大縄跳びの様子。クラスで団結し、跳び続ける。各クラスで男女に分かれ、それぞれが3分間の中で最も多く飛べた回数と、3分間行われた8の字跳びの合計の回数を競った。

大接戦のリレー



先生もリレーに参加

最終種目は、クラス対抗で行う全員リレー。総合優勝に向けての最後の競技。全クラス、やる気のみならず、雰囲気でもレースが始まった。クラス数が多いこともあり、タイムの速さで順位を決めるスタートラインにはB、E、H、K組。第1走者がスタートの合図とともに走り出した。

3年ぶりの留学生

ドイツから3年ぶりに錦城へ留学生がやってきた。現在1年F組に在籍しているケスラ・コンラッドさんに取材をした。コンラッドさんは日本語を上手に話し、取材中も他のクラスの生徒とにこやかに挨拶を交わしあうなど、積極的な交流も見られた。日本に留学しようと思ったきっかけは、日本の文化全般に興味を持っていたことだそう。ドイツで他の言語を話す機会がないからこそ、他の言語を



緊張した様子で取材に応じる

話したいと思い、留学を決意したコンラッドさん。実は、日本に来る際に1年間かけて日本語を勉強したそう。そのうち2か月間は日本人の家庭教師と共に勉強し、錦城に留学するための準備を念入りして来たそう。コンラッドさんは自分が日本語を身につけた理由は、科学者になってNASAで働きたいからだという。それ以来ドイツでも空手を楽しんでいた。日本とドイツの違いを聞くと「日本人は人にも優しい」と即答する。特に感じるのは「プリントを渡すときに「よろしくお願います」と丁寧なあいさつをすること。また、ゴミをポイ捨てせず持ち帰ったりするところも、日本とドイツの違いだそう。1年間の留学で目標について「日本語をもっと上手になりたいです」と話す。皆さんも積極的にコンラッドさんに話しかけてみよう。(歩)

舞初演の変わり色 ダンス部「スペシャルダンスショー」開催

4月12日(火)に、多目的ホールにてダンス部によるスペシャルダンスショーが行われた。魅力あふれるダンスが40分間にわたって行われ、会場中を大きく盛り上げた。曲が変わるごとにメンバーが入れ代わり、フィナーレではメンバー全員がステージに集まって一斉に踊り、会場は最高潮の盛り上がりを見せる。ショーが終わってからも会場では華麗なダンスの余韻が残っていた。観客の池田開さん(2F)と浜口太陽さん(2D)は「最初から最後までずっとカッコいい演技が見られて、満足感でいっぱいです」と口をそろえて話した。全てのダンスがレベルの高いものばかりで充足感と「もっと見ていたい」という気持ちが大きかったそう。部長の土屋和歌さん(3H)はコロナ禍の影響で今回初めて照明を照らして踊ることができたと話し「照明のおかげで緊張が漂って楽しかった」と笑顔で語った。「迫力満点で、可愛くて、とにかく凄かったです」と話すのは佐藤彩音さん(1G)。もともとダンス部に入ろうと決めていたそうで、今回のショーを見て「絶対にダンス部に入ろう」という思いが強まったという。柳本こころさん(1K)は入りたい部活についてまだ決まっていなくて、今回のショーが実施されるにあたって「せっかくなら見に行ってみよう」と参加を決めたという。「最後まで飽きることなく楽しめました。参加できて良かったです」と語った。(桜)



苦戦したフォーメーションも美しく表現

優勝に対する喜びを語る2人。山田さんは「我々は止まらねえ！春の球技大会ではさらに成長します。覚悟してください」と次の行事への意欲を示した。春の球技大会まで約半月。さらに団結した姿に期待したい。

優勝に対する喜びを語る2人

「むらさき草」 皆さんの今年の選抜高等学校野球、いわゆる春の甲子園を見たのだろうか。今年の大会は元チームメイトが出場するので久しぶりに見たいと思つた。試合を通して球児たちを見てみると、現役で野球をやっていた頃に見たことを思い出した。中学時代、硬式野球チームに所属していた。そのチームは複数回全国大会に出場している強豪。コーチ陣も元プロ野球選手の人が大半を占めていて、熱心な指導を受けていた。入部してくる人の大半は人生を野球に賭けていて、練習はとてつもないものだったが、それでも彼らは「自分のためだ」と嬉々として練習に打ち込んでいた。そこまですべてを打ち込めるか気になって、チームメイトたちに「どうしてそんなに野球を一生懸命やるのか」と聞いてみた。帰ってくる答えは大体「プロになりたいから」や「甲子園に出たいから」など。そんなやり取りを経て分かったことがある。彼らには共通の思いがあった。それは『野球で自分の進路を切り開いてやる』というものだった。そんな彼らの覚悟に敬意を抱いた。しかし、指導陣の大人たちは「それでは足りない」という。「どうしてだろう、何が足りないのだろう」と思った。お前たちは何でプロになれた。だがその後はどうするんだ？と。考えるにおそらく、ゴールというものは、目標の再設定に再設定を繰り返して、自分が満足、あるいは絶望して再設定の歩みが終わった時に訪れるものなんだと思う。私には目標がある。それはKADOKAWAの小説編集者になることだ。しかし、その目標が叶ったとしても目標の再設定の旅路が待っているのだろう。いつの日か旅路の終わりが訪れた時に『良かったな』と思えるように足掻き続けていきたい。(桂)

急募

一緒に新聞をつくりませんか？パソコンを上手に使えるようになりたい人、文章が上手になりたい人大大募集!!! 新聞を作りたい人は放課後新校舎7階の生徒会室までぜひお越しください。 新聞委員会編集部

バスケット部

火・木・土・日：第一体育館
水・金：第二体育館
外練：外練
部員数：3年生9人、2年生4人
みんなで帰ります!

卓球部

が勢も初心者も大歓迎

剣道部

月火木土 剣道場にて活動中
初心者歓迎

文芸部

活動日 月・水・水
活動場所 7階の部室など
No.60 かわい、謎の生物
兼部OK!!
ゆるい部活だよ。
部誌「舞」遠夜、発行しています!

新任 共に錦城の未来を描く先生方

新たに錦城に赴任してきた新任の先生を紹介①

今年の錦城には18人の新任の先生が赴任した。今年も、君の学びをサポートしてくれる強力かつ個性派の先生が勢揃い。今号では国語科、英語科、数学科、理科、体育科の先生を紹介する。趣味や特技など、先生方の知られざる素顔をその目で確かめよう！
(編集部共同取材)

国語科

橋本 超先生
現代文(2年)
「成長できる高校生活を」



橋本先生は「自分の努力でたくさんの人に見える形で影響を与えたい」との思いから教員を目指したそう。国語を選んだ理由について「元々国語が好きだったこともあり、現実を言葉で認識する我々にとって、その基礎となる1番スタンダードな教科だからです」と話した。また、国語の好きなところを「一人の考えの軸になるところです」と語った。

橋本先生自身が大切にしている言葉は「その場にとどまり続けるためには、全力で走り続けなきゃいけない」だそう。

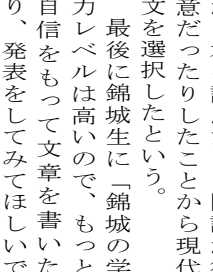
最後に「高校生は大人になりつつある年です。そんな皆さんと一緒に成長していきたい。そんな学校生活を送れたらと思います」と意気込んだ。

おおくま 浩平先生
現代の国語(1年)
現代文(2年)
「何事にももっと自信を持って」



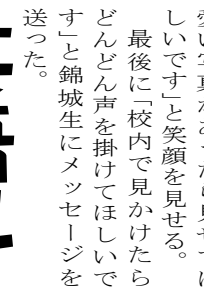
高校時代、ハンドボール部に所属していた大迫先生。「夏合宿に行った際の練習で走り込みをした後に宿舎の階段の上り下りをしたことが思い出です」と笑顔。また、高校3年生までの15年間ピアノを習っていたといい、現在弾ける唯一の曲はアンジュ・アキの『手紙』と答えた。大迫先生が教師になろうと思ったきっかけは、「小学校時代に担任の先生に『教師になってみてはどうか』と言われたこと。また当時から本を読んだり、国語が得意だったことから現代文を選んだ」と話した。

山脇 颯馬先生
現代の国語(1年)
現代文(2年)
「たくさん声をかけてください」



山脇先生は、教職に就いた理由を「人と関わるのが好きで、人と沢山話すことができてからです」と語る。高校時代には赤とんぼ部(交通研究部航空班)に所属していたそう。シオラマやプラモデル、模型などを製作していたという。

おおくま 透先生
本多 透先生
英語コミュニケーション・論理表現(1年)
サイドリーダー(2年)
「好きなことに向かって努力してほしいです」



趣味は登山と大学に入ってからやり始めたという弓道。休日には友人達とボードゲームをよくするそう。また、犬が好きで自分で飼っている愛犬を愛することも好きだ。犬が好きなので可愛い写真があつたら見せてほしいですと笑顔を見せる。

最後に「校内で見かけたらどんな声を掛けてほしいです」と錦城生にメッセージを送った。

元々一般企業に勤めていたという本多先生。取引先に教育関係の会社が多く、その影響から自身も教育に関わりたかった。教師になるのは、英語を世界共通語として、英語が世界共通語で、勉強だと思わなかったからだそう。

本多先生の趣味は英会話で、2年間毎日オンライン英会話をしている。「日本では英語を話す機会がほとんどないからこそ、積極的に英語を話す機会を自分で作っていくことが大切です」と熱く語る本多先生。日々、1つの物事を継続させる秘訣は信念を持つこと、辛いときは己の目標を見つめ直すことだと話す。

最後に錦城生へ「何か好きなことを見つけて、それに向かって努力してほしい」と呼び掛けた。

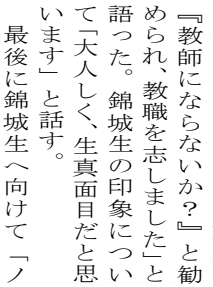
よしもと 幸弘先生
数II B(2年)
「解く過程を意識してはどうか?」



北海道出身の吉本先生。好きなものは銭湯、旅行、故郷である札幌市に帰省することに加えてアイドル鑑賞と数多くあり、アイドルは特にレトロなものが好きだ。休日は散歩や競馬、旅行などに出かけるそう。教師を志した理由は「もともと数学が大好きだったので、特に教師になる予定はなく、サラリーマンとして一般企業に就職する予定でした。しかし、友人に『教師にならないか?』と勧められ、教職を志しました」と話した。錦城生の印象について「友人に、生真面目だと思えます」と話す。

最後に錦城生へ向けて「ノートに問題集の問題をコピーして貼って解くのが良いと思います。計算などは省略せずに過程を意識しながら解いてみてはどうでしょうか?」と教員としてのアドバイスを送った。

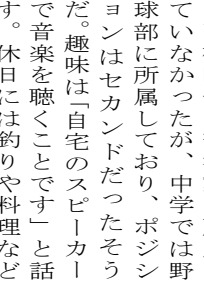
江上 稜大先生
数I A(1年)
数II B(2年)
「受験まで頑張ってください」



教師だった両親に憧れ、その後を追う形で教師になったという江上先生。小学校から高校までの9年間ひたすら将棋に打ち込んでいたと話す。また、高校生のときに父親の話ばかり聞いていたことで、父親の名前をとって「しげる」という本名とは全く違うあだ名をつけられたという。女子にはそれが実際の名前だと勘違いされ続けていたそう。

一番好きな教科は化学だという江上先生。生徒に教える上で気を付けていることは「身近な現象に疑問を持ってもらえるようにすること」だと話す。自分の身の回りのことに疑問を持たなくなると、

よしもと 幸弘先生
数II B(2年)
「解く過程を意識してはどうか?」



高校時代は部活動に所属していなかったが、中学では野球部に所属しており、ポジションはセカンドだったそう。趣味は「自宅のスピーカーカーで音楽を聴くこと」と話す。休日には釣りや料理などをやるそう。卵料理が得意だ。

最後に錦城生に向けて「錦城生は熱心に勉強に取り組んでくれているので、そのまま受験まで頑張り続けてほしいです」とエールを送った。

いちのせ 優貴先生
生物基礎(1年)
科学と人間生活(2年)
「理科は間違ってもなんぼの教科です」

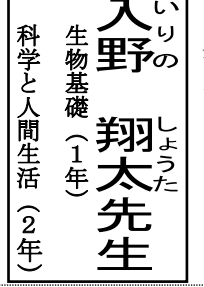


入野先生が教師を志したきっかけは、両親が教師のため身近に「教師」という職があったこと。高校時代の先生に憧れがあったこと。生物を担っている入野先生は、生物の魅力について「なぜ葉は赤くなるのか」といった日常の結びつきに気づくことができること」と話す。

入野先生の座右の銘は「継続は力なり」。結果はどうかであれ、納得するまでやるのが大事だと考えているそう。

錦城生へ向けて「僕も今年錦城に来た『1年生』で、分からないことがあるので、色々なことをたくさん教えてほしいです」と呼びかけた。

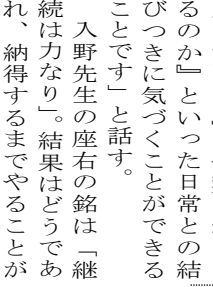
いりの 翔太先生
生物基礎(1年)
科学と人間生活(2年)
「納得するまでやるのが大事です」



校長先生だった祖父の影響で教師を志した大内先生。大学卒業後は中学校で理科の教師をしていたが、一生生徒と一緒にスポーツをやりたいという思いから、もう一度大学に通い直して教員免許を取り、保健の先生になったそう。5歳から空手を続けていたため、高校時代は空手道部に所属し、高校生活のほとんどの時間を費やしていた大内先生。高校時代で最も印象深かったのは、卒業間際に行われた部内の引退試合だと語る。成長した後輩と組手を行う中で「後輩だけには負けたくない」という思いが同様にこみあげてきたそう。

「今という一瞬が未来を作ります。その瞬間を大事にしながら、高校生活を送っていきましょう」と話した。

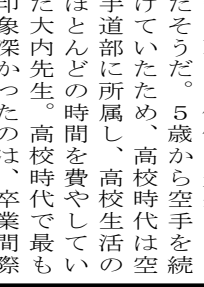
ひろまつ 優一先生
保健(2年)
選択体育(3年)
「生徒に自分の経験を伝え、世界観を広げたいです」



廣松先生は、現在FC東京のサッカースタイルでコーチを勤めながら、錦城で勤務している。年長でサッカーを始め、中学3年生のときにはセレクションに合格し、名古屋グランパスのジュニアユースに所属していた。自身の高校時代を振り返って「サッカーの期待生として高校に入学したので、その期待に応えるために勉強とサッカーの両立に全力を尽くしました」と話す。目指す授業スタイルは「生徒の世界観を広げられるような授業」だ。

そして錦城生に「受験に向かって頑張るのも大事ですが、クラス単位で1つのことに打ち込める最後の時期である高校生活を楽しんでほしいです」とメッセージを送った。

おおくま 渉夢先生
保健(2年)
「生徒とずっとスポーツをやってみたいです」



「中学生の頃から漠然と教師になりたいという思いがありました」と話す高橋先生。高校時代の体育の先生に憧れて本格的に教師を目指すようになったという。授業中に意識していることを「生徒が体育の授業中に笑ったり、できなくても頑張ったり、取り組んだりしてくれる授業になるようにしています」と語った。高橋先生は高校時代にハンドボール部でキャプテンをしていたそう。で「東京都ベスト8に入れたこと」が1番の思い出だという。

最後に錦城生に向けて「ぜひ3年間で夢中になれるものを見つけてほしいです」と話した。

たかはし 理沙先生
体育(1年)
選択体育(3年)
「生徒に自分の経験を伝え、世界観を広げたいです」



「生徒とずっとスポーツをやってみたいです」

総文の展示会が開催中

7月31日(日)から8月4日(木)にかけて行われる第46回全国高等学校総合文化祭(以下、とうきょう祭)の展示が東京都立中央図書館にて開催されている。展示室に入るとまず、美術・工芸部門生徒部門別委員が示すよう総文のポスターやよう総文のおもてなし企画なども展示されていた。また、会場内のモニターでは10月に行われた総文祭の総文大会の様子や大会イメージのPVが上映されていた。さらにアンケートとクイズラリーも行われており、クイズラリーに参加するとうきょう総文オリジナルグッズが貰える。

この展示は6月30日(木)まで東京都立中央図書館の4階企画展示室で開催されているので、是非足を運んでみてはどうだろうか。(鳥)

生徒会動静

4.19~5.12

4月19日(火) クラスTシャツ係

4月20日(水) HR委員会

4月21日(木) HR委員会(3年) 保健委員会 修学旅行委員会(3年) 錦城祭実行委員会 新聞委員会

4月25日(月) HR委員会(3年) 錦城祭クラス企画係 保健委員会

4月27日(水) 図書委員会

4月28日(木) HR委員会(3年)

5月9日(月) HR委員会(3年)

5月11日(水) 代議員会

5月12日(木) HR委員会